新式和歌

目録
宗祇

歌

伊地知文庫
文庫20
211
1

文庫20
211
1

明倫堂蔵書

伊地知氏書冊

連歌新式目和寄　紙巻

一　詠の事

詠の字の事

一　詠一句はかなの事

一　詠一句はかなの事

一　詠一句はかなの事

一　詠一句はかなの事

松虫や鈴むし

面白く如くこゑさてはたらく鐘

春雨ゆゑ秋の雨とひらけば

蛍雨ゆゑ雨とさと二ゆゑ

上句は俗と第ぬ下の句に

一句とはなりと仏性てきる

一句二句物事

二句鶴か岡やうるやや池堤

一八名所 隅田川

山は名ばかりぬ花も桜かく

一句の内に二ときき

春風や又秋風も松風も

懐紙に成りて二はきる

暁とせのわるかれと相はき

神代ここの世二なりて

多門まるの詞は二あれ

きぬぎぬ　年ふるまゝに
古今の物語り　一川旅やどや
名所くさくさ　ものがたりしき
宿をて　旅の袖やそのかゝり
やとりを　雲のやどりも
露ふる田露　いひつゝ西行
名所　月　月
清法を　懐中　かゝて又ひろい

能もこゝ　ゆかりと　かゝり　求よ
二ひろ　ゆかり　物語　垣地　遠と　峯
稲葉の　陰も　孫ひろい
恵の　白い　待と　明と　遠
月　二ひろ　ゆかり
遠近　ひろ　ゆかり　又　ひろ
ひろ　ゆかり　上下ふよ
涼しさ　秋萩　秋ふよ　元の　葉

立てぬ様も言の葉にいへり
荻は字の立てに様も荻原は
詞のくひ取かたしれ
敷立名称にひとつあれはさ
くひのある縁と知りてやさん
菩薩法のもしろ縁し合せ
薩はかり世によれや
鶴のかよ英名ハミて一川

康も すゝもつれてきよ
竹影の立ての様もいひ当て
花咲草は語ともしれよ
上縁ては様に廣國又も立
あるは漢に誠語二句燈子や
何文字いきて松の風といへる一川
いへりの句とハ松風とよ
一韻三句は趣すり

馬場の懐紙かくて詠ぶ
除り詠ぶ又もあるべし
三わの神と神代と名の種
天照神の類とぞしき
春柳撫で春あて後
一ハ雪とぞ花ちる
春よ五橋一本の和歌まき
ゆとつ書よ秋ぞ紅葉

演萩や萩の焼原河合
秋しり和又もあるべ
三ヒハ落のあるまま尾花まき
すくろも結やも門会へ
始をて始焼朝ぞしは
らしほと又も思ひ
彼岸とすまきハ釋教岸ハない
名取して白ぞ三と知り

指さく云ふてきて小唐傘
敷りい之ものをも
小車や法の車やもち車
ふしをたかく白紙をも
三ちい種の後の意をもち
傘のひらいを内へもち
晩鐘の音くの後ハもち鐘
亀の鐘といハ天教をも

梅はなの人事をうなをもち
名木をもいもりひもち
文をもく些の四しをもち
出家ハ世の内とをもい
面二面て法後ハ少主や
附面の面をもち又一門を
雨をもちさめしあとひの雨とハ一時
あめふ雨ハ降をもち

離一名一和ハ一くさの風ハ
和ハ湖の流ハ一をの秋
雪の白ハ江湖ハ実れ似を西ハ
俳句ハ西かゝ風
関一名百和ハ春秋ハ
ともハ悪しおきハ合ハ
氷豆春ハ和ハ霜雪や
月や湖ハ結ふとうこく

宝と云文字ハ懐紙ハ人ハ
宗因ハ天ハ和ハ
宮ハて神祇皇居ハ江ハ
二ハいつまき名和ハ
鶴ハ鶴や雑霜ハ雑の字ハ
ハを加ハ江ハ
多ハ鶴や多霜ハ文の字ハ
ハ鶴加ハ江ハ

火ハ江の橋と定れ　こゝ
堂の火をハ西ハ
玉ハ字ハ江と定れ　こゝ
ムの玉ハ西こゝ
業ハ江ハ木ハ
第ハ江ハ又向こゝ
枕寝ハ
国も眠も西ハ

まハ木ハ戸や又ハ笑の戸　谷の戸も
とゝ　詞　江せる
彈琴や馬の鐵馬　詞
おりて　白髪をる
比の字ハ韵　四せり　こゝ
ゆふ　こゝ
法ハ鉢　白の木
ゝとし　こゝ　ハ四　ハ

紅葉を折や櫨や茶せんて
りこ道の梢ハ又もあり
一元大句の題
平世を述懐 二句 流先
佛の世をハ引う会
折紙懸物書
物とい居れ折紙懸ふ会
ふ居ハ居ハ居ハ居ハ居ハ

閑居や戸や窓陰家村すきう
居ハ居ハ折紙懸ふ
居ハふふ折紙懸ふ茶碗や
田面ハいりやとうすう
湯居ます蓼ハ蓼ハ蓼ハ蓼ハ
いつまも居ハ二句懸ふ
隆ハ霧ふ隆ハ隆ハ隆ハ
銀ふ二句懸ふ

月日小日次月須い清きを
寺越梅を尋ねしうこけ
植置く蘭や　こうの松杉
かまと野　堤に二白梅を
田もかりに植置くうれ廉を迎
守ともかりに二白梅を
生乳や又植置く第乃字ふ
二白陰くに袖うらん

植置く二白梅を　黄代や
埋置ふ下苔叢と第村
植置と毛迎に二白梅を
夏の竹屋と陰の苔を
う置く寺越梅を末ふ植れ
第ものあ竹とうす
人と身と碓に夜うら越村
梅とと生死に命

打越に生類と又水辺も
これハ生類雑同類と
定にハ去宗ぬとも付し只
雲に星も二句嫌ふへし
暑にハ定さも付し涼れ
身にしむも又二句嫌ひ
鳥の鳴鐘の鳴にハ二句嫌へ
雪に春ハ句ゆうりへき

末枯木首に木の字や青に関
ゑふかくりて二句嫌へし
春秋の暮に夕の字氣に陰
讀にみりも二句嫌ふへし
遠にハとらの字洞と遠からぬ
又字に打越嫌ふかゝわり
打越とも嫌ふ洞に袖なり露
又ハ洞に鳴と云葉も

をりんぬと　二句掛詞
月のぬしとふのぬ　月ぬしかう
祝ふは夢とも月が曇り
あらぬ雨と二句掛詞
世をふかくと世をとと月ふ
美ふくつも二句掛詞
蓑ふ笠ふ主ふ　蓑ふ笠ふ主ふ
夕戸明と二句掛詞

窓ふ門戸ふ二句掛詞
西ふ　西ふ
閑ふ又蓋ふ　閑ふ蓋ふ
さてい出ふ　新ふ
聖分とい墨ふ　書ふ
ふらと　飛と二句掛詞
天ふ雨ふ　越掛詞　初ふ
書ふ　書ふ　明ふ

〈云ハ〈と云字よハ二句去て
清路ハ清もの歌なれとも
萩ハ声風ハ音ハ紙指ニ
魂ハ玉の歌なれ共ちらす
四ツ四ツ和ハ始ハ四ツ中と
いつまとは文字と二句指へ
長殘ハ名の字ハ殘ハ文字
うれふつくさと二句指下

きりとハ文字ハ紙指へし
きりしきりふかうら須を
二句指へ行のハいつまハ何ふなた
いふ行のこの文字ハ歌と
なりとなりうまうる文字の
ハ紙と指へたり者
歌ハたとり乙ハ
を句よりて二句指下

若狭より越後へ行脚二句ならへ

名所〳〵に三句去侍し

衣〳〵に夜ごろ寄り衣あり

二百余年や句とゞめ付つさ

物も長歌小二句の掛るふ

度に掛るく寄り

重荷人に二百と掛へきと

使ひの文字掛らんして

三句掛物事

行すゝ三句侍よ行みさ

藤と云句は名所掛ゝ

月日星三句侍よ七夕

天の河東よ掛ゝ

陸奥の数よ面影雲あり

此事とは三句侍よ

雲雲や懸の軍物

[illegible]

三條の西ハ本願寺[illegible]

[illegible]

國の名所の名の出た國々[illegible]

名所の句とハ三句屋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

述懷や神祇釋教[illegible]

行[illegible]の句[illegible]

永岡や竹田松尾長川

[illegible]

[illegible]詞のあハ[illegible]

[illegible]

山城の山の[illegible]

[illegible]

摂川山寺

七日去申事

夢枕衣の潤月ゆ[illegible]

行きて七日逢くうもれ

松や雪や行国の煙行きとも

七日逢くおりひしへ

水色は天神門あるもの

春の夕ふは七日去へし

衣敷は袴ハ袴ハ[illegible]七夕や

かすみ敷衣七日去へし

去は袴申事

富士は雪しらかる

きやりも今の世ハ春うらし

松垣いかるかから掛戸は

花のあるかりの住居とも

鳴の巣や露の古巣を新ふて

しら雪の巣と去と知へし

朝顔や十すじ程の淵あさの
物語は春より始まりけり
年越して水うるる雪ぬけ際
霞ゆるる地まさに望しし
春とこそ萩の焼原松の花
白浪徒原の雪もまさし
桂はは岩とくくりて美濃
緑立ちや去れば松うえ

萩は秋始末

ぬりこ第又かさはる神無月
梯もとらはも立方は成市り
歌をやうき藤は花を結ぶ
熟とは立の雨とこそ
牡丹とは萩は用て梅うる第
とぞかの第ともるを名かしてあ
秋は成始末

[illegible]と[illegible]の[illegible]秋[illegible]や
[illegible]の[illegible]かつ[illegible]桐の紫
袖の[illegible]陸[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]小[illegible]
[illegible]秋[illegible]
[illegible]花[illegible]神[illegible]
[illegible]のうち[illegible]秋[illegible]

七夕[illegible]詞や[illegible]
[illegible]や[illegible]秋[illegible]
[illegible]小[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]木[illegible]の[illegible]
[illegible]
小祭神楽の詞

春の来ぬるも花に知らる
求子や星や榊葉きりくにて
うしろ引は神楽しれり
付句嫌物之事
正かうしに紅葉など付る紅葉には
こゝろ詞付てよしれし
竹に世を付て詞のよくは嫌
条に梅しとはいひてつき

140

松実に弓を付は弓にまき
引も跡より用付かうし
春木の下に木の字を嫌木の字
様を引出には付りちら嫌り
思ひにはりすりむを嫌は
火の字出詞嫌へし
付句嫌物之事
年を嫌などはうきなりうたに云なして

付句とうり姫はゝ
生死身命切ゝ儒
識も同一事とてう
明神ゝ神名文字とい付さ意ハ
雅ゝおハさらへ名新ゝ花
何の文字いはとゝ小者とも
付句とかり姫とうもさく
さほしうやゝ小夜の寝覚ゝ小の字ハ

付句とうり姫とうさく
すゝ形さゝ墓ゝ墓ゝさと又ゝ紀人ゝ
付句とうりを姫ゝつさし

付句ゝ姫物事

東雲ゝ牛ゝ文字姫ゝ
ゝ和とうゝ朝ゝ
名日ゝハ日ゝ名ゝ付ゝ切ハ亦
かゝとうゝ

去日植ゝ花

鏡に山と付よとのかに
花形ちらしに西ちりぬて
百姓字に白百姓と付たる
蛙に川の文字に蛙りて
付句に花に蛙と云こと
花に美こと
稲妻に月日
日に宣もまた同事し

150

蛙に蛙いきりと弱に舟の文字
陣羽に神に難面に
面相
氷室に面相
氷に氷室
一文字に面相
数の字に
三字に面と
相に文

清潔にして書はしらべて
岩に石に巖に水に又
高砂も面影とかへよ帝よ又
雪を紅葉の間かくして
意の世に末世末世懺悔佛の在
面をうつす鏡のごとくに
寢ぬるを如ぬ詞も裏よ

おもて職も面かへ面し

打寄物書

写よ筆は懺悔にかへて九重に
都の内の梅ならん
月のうちに輝や昔に古へも
桃よ紅葉かりを詣て
岩よ石筆の流れ
懺悔せかるとき

上の句は翁の字なれば下句の
四十九年とは輝くべきこと

水道小歌詞事

枯蓮のくぬ蓮まはこも草
水底のしくひもも水色
清水寺こもち迄成るは
初瀬のもいは山おろし
滝の水清や泉や江の堀

江戸城の水道の歌

水道は江戸城詞事

似せ西の花の波浪花の波
水迄なりぬ初しく
ちゑ迄をのうとしき清水
上井や岡の河ゆてい
さうひ又月の水は當代や
寒絹細水ちゑ迄ぬ

水辺まさる草花
野とゝ鶯のきくひさうり

山類事

逢坂の山ちかし　初かまき
清水の笑　逢坂

岩や峯　洞や尾上や　禁坂
おもい岩山の姿ともゝ
橋や瀧や　松木や　岩屋　寒鳥

きくひい山の中と知へし

山類不如西事

岩橋や　瀧津瀧　嬬の白
山れなしゝ地と社こそ
山地の奥　表里の奥を　山類
なしぬと社　木曽路　禁路
鶯の　岩屋　鶯の林や　山ぢ
うぐひす　理ともしき

遠近山白雪ふりくさ落ぬる
法師の清水山もとの
山もとは嶺にぬるとも
田蓑の島
松人や宮の八幡と言山と
山もとうるぬ地とも
居和歌浦事
形や庵室窓門ゆ
隣も居和の浦
居和用事
庭火又乎面の
居和の用とも
居和之樵地事
里神乎拝や天王寺や
袁とあり
鞠の庭居和の河のうくいと

[illegible]の場は一ちりへし

人倫は成地事

父母やひとり様親と人

友[illegible]もく人倫ろうし

人倫は[illegible]

[illegible]と主木主や物ろり月と友

[illegible]大[illegible]人倫の外

植物成物

藤花新の菖蒲は第莊

第[illegible]植物[illegible]事

木城さりや志[illegible]芦田露衍の志

植西ろぬ海水流水

松の門凡木実人枝り宮

第[illegible]植物の外

数分事

是庶水鶏や[illegible]屋ろ[illegible]や

庭たいらう大寝数安らし

190

燈や法の灯　互はまされ

ほうは和の燈ほうの音

夜分ふ成拙事

夢の世や常の灯　禮うも

るのねるとも思ひまれ

思ひは法ほう　如詞の明るき

はるとそとも明るくも

三月の出う詞　有解さ

へも表ひはうも思とまも

ゆの文字くりまたうふ桜の

ゆらの心はまとてうり

遠帰過事

花は只桜や歳と付毒し

郎は立句は毒帰過し

述懐事

芭蕉翁の所と推され
花のたもとに迷惑らまし
陸奥や俳諸の命世のしら
せもあらむも迷惑と知る
迷惑や河のまもれる拙なさは
尺数の句なりひ寄せ
付板事
五秋は意の秋の句なりは

意味秋にして果てまさし
板木には付は三句めは
うつさの河面なりぬ
歌のかり場のわらい小唐物
付りたはなりひ寄句
句数事
五秋は意の句は人句芭蕉翁
旅の秋は三句はすきよ

巻くの心は前より留まるも
源氏物語の句とて二句つゞき
雜物語事
遠音は嶋の浦の雅楽より
聲ゝ聞ゆ
伊勢の山いさもゝ紅葉せし
心はかけて紅葉とはいき
物階日雑日計の事なるは

きりの長き月日とて成
歌は宮めかしき雜なるもや
かゝる人の立ち寄れる
卯花や清むしろ木の葉
前山の第とも
掃塵は去りて秋の立田姫
山姫にて雑とも
花の木陰衣のうこと事と持は

[illegible]二百[illegible]

右俊成卿[illegible]二百廿首

[illegible]進上申[illegible]當代[illegible]風

不[illegible]之[illegible]云々

[illegible]判

[illegible]十八知[illegible]事

遥[illegible]来て[illegible]歳と花の[illegible]

神[illegible]紅葉[illegible]春[illegible]来

[illegible]秋の[illegible]

[illegible]の[illegible]の孤

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]日[illegible]

[illegible]この[illegible]

はな
花に月紅葉に雪の秋の景
を
一夢に思ひわくれば郭公
ほ
鳴いはの木の下宿は松の雨
け
ゆふ風花なれば春末を
や
雪やそなたのこぬ夜の湖水
を
面ひとつきまこひ〻ひ〻ひ西橋
う
花とうむ朝霧うつせ鏡家
き
こゆるとて物とうとは物の雪
も
行年も立や前て雪は宿
ね
雪の花春の風
し
よも物し蓬壺の杉雲
に
の月や花ゆゆみる色も物〻家
中の
や雪ゆり雲や厳は日は入
疑の
や思ひいりや鳥うんもて前もむ
ま
や苔や花や嵐よつまて雪む
ま
や隠しても月の色(こと思ふや

ハのや 今ハ昔やとつ屋敷を買て
此や能く師説と語つたと云へ

宗御法師　十九首

一　教白衣ハ出家ハ法師也　法師ハ世いとひらを紙の名とまり

二　服の白い教白のんよく法く
　　ちゃうまと郷くて牧くてせよ

三　寺こハ牧と法ぬてと白て
　　物とくく　教て牧くてせよ

四　四句めとなりて清くと付けて
　　[illegible]いひうつして
五　五句めとい龍のくと脱して
　　[illegible]と付けられ
六　六句めい[illegible]付けて
　　日も入会[illegible]と知て
七　七句めい[illegible]降ぬ　[illegible]
　　[illegible]雨の時雨の

八　八句めはもとより付なして
　　[illegible]くとして栗を
九　九句めを民門の[illegible]梓弓
　　[illegible]く拾く栗を
十　十句めい脱句[illegible]拾ぬく
　　[illegible]をいくつ
十一　十一句いふ[illegible]ひ[illegible]れは
　　[illegible]付られ

[illegible]
[illegible]
元服や烏帽子をもつて連歌の
[illegible]
移徙の連歌の時を正法とも
やはりこれもかりやの新
武人の人を移徙の連歌は
[illegible]

袴衣の連歌は[illegible]
[illegible]の衣[illegible]
[illegible]
[illegible]
師や親や宿老[illegible]の[illegible]
[illegible]連歌と[illegible]
[illegible]の人[illegible]
[illegible]

賦招篇

山何

一石林京附寄鳥語

主人入叢風隱川

陰垣田橋樓樂柳

并雲第下松寺

蓋尚樹墨深木暮
雖羅衣小言百合菓
宋人拙女擡閑花
多鳩烟鬱鬱排
仗柔木綿燒古多
鬱越四

何路

一家今古市石細西
夢苦水下舟遠山
浦隱將夜猿浪猿哀
雲多作長中海
彈琴車閑演二去

湘東岡坂嚴田坂
祈濟若不用意
何木
一幕詩紀蓁年庚寅
立春夙別玉溪松
[illegible] 秋流堰溪

沉老差思白赤杉
九山枕松松根日一
百年忍聖弓橋副
沸
何人
一家市里古酒家

樊爾庚自拾遺樓
回族民國雪山杞深
市月報名仗宿約
岩中村昔哥葬
現翻印四叠義
裏思雲上公天津

細細代採要立樵夫
白布津及汗下諸
遠清隨蔡東仗
宿政文木民

何舟

一春夏秋冬黃茂

出入稲板不思初樓
不鳩荷帆泊小舟
沸波千雪渡庚樓川
黄雀夕来言浮鵜
浦奥沖第上下枝
車屋形為於釣市

溪

花何

一色蓋重楓蓋蘆花
陰橋陳書男女渡
聖化蓋橋盡凡人
又引蔦茂瓶園

山袋衣下

岩之何

一喜林亀 稀白而友

附上井乙 庭樊面多

別陰鏡 喜新袖

被露 擢素 蓬雲

山閑 古石 楠木立 衣

乙枝 主盛 木吾 故

下白雪 白波 龍 幸

光姿

唐何

一糸口 岩 萩 稀 吾 洞

笠行板蓮玉敲石
十七紅梅蓮紫蓮
國第松車スミ文
聖賢衣綾藍末
蒙亦張人声
青何

一無糸稲　石斛花田行
橘玉雪桂苗葉梅馬
海蟹雲菓山閑苔緑
木立紫紅紫　鶴鶯
何所

一出入田立鈴音張涼寂

白何

一糸不用以茅為カサ子
玉楼玉殿ツヽシナし
雲壽天ケ鶴木菓
木綿

鄭何

一市機白庵戸麻為
濱風新東風嵐樂新
頼川指柏旁月日
衣霜霜雲陰涼海
茱萸起茱萸辨東
及書用子指シメリ

夕何

一栄庭星洞香深霜

新風嵐新野川月日

附日月夜露浪垢涙

雲草紅蕾園山燈

永水寺赤食寺道

水寺附西又〻〻鄰蹟

何

一西糸石板風玉深車

文仏水引枕松ナライ縄

下何

一句西繋蘇思草心常

ハラヒ　風流紅葉　露ノメ
衣枝濡水乃龍宗
樋為添打蓮衣木
孤裳

初何

一法桜　文市春秋堂

乃雪　時雪　紅葉　子日
イモリ　森　徳　巌雪　特風
芙蓉　芙水　夜田　変
卯花　菊　露　時雪　霜花
苗　乃花　雪　山　豊畑　乃
雪　芙入　掛　尾花

御何

一池橋柱執戸年数
新特カケ神門カキ竺代
田民摩国衣袖宮縄
枝津石渡宮井法圓
寺社祭典琴乙手主

柳火蒙珍
行行の

一山岳々帆船亟奏伎繕舞
下財戸器 興奉祈心祭
意手アラシキ乾シキ 財雨

舊何

一色板屋田桟白霜書
雲リメ氷峰紅葉緑
クモリ夜杉茶山炭煙地
紅繁スミ

何風

一喜秋冬西山樹

一津神川夜景下夕雨
上浦浜風貞津松二千
手西小南浜海関乃
垣板回

何水

一喜夜秋冬山川岳雲

年齢若下田玉ナカレ
雲面水多波沼
池雲衡軍理

何屋

一板石宗命教稲田莨
屋高嘉一高宋車老松

菊竹東芸藤海紫閑成
指枝橋水

何田

一山嘉夜秋色石池小池渓
潺遠岳門神聖古サクラ嘉
作苔芸

何蕃

一壹夜秋色入孤村孤館
千萬度一夜百夜百聲
田家農夫月下七村堰
流聲長義山寺鐘夕
水水芙蓉蓮葉日新 葵

何寄

一初殺庭千庵山水秋田
子清深思鈴白毛蓬
費壹

何馬

一板早夜老 老作夜

黄鸝上門青木白
絲數毋西
何色
一楊柳山頂木葉赤
初花金花紅繁田枯
根葉深上下為紅
紫二声淺山水日火
一雀黄墨芳苗青
何心
一谷所世地人下山
何衣
一色青根葉花ウメ櫻

特初シリ庵振玉小夜
山ノ秋ノ夜秋ノ月
卯花古面キナシ身代
ミトリ白下草涼布スミ
指
何文

一石内卯ノ月年門庵夜
田立位若古振大和
何指

一初未ニシテ取敵宿亟庵
深化カナリ市衣指園
金津

何世

一神市万海千三七

常同一君賀

千何

一木人多代年第亦

町鴻墨入主友取

秋枝寺

玉何主妻

一妻橋江鴻川井北

敬姬裏梅藤忠麓

第麻疫海鮮高友

非常襟作

一字熟語　日火　故事　名葉

二字延音　花縄　友徳　水罪

三字中略　蜂巣　菖蒲　桂カラ

椿月　花アシ

四字上下略　嘗クイ　花松　萬代　鶯

十八切字

れ　ゆ　る　る　か　よ　て

せ　え　や　き　つ　と　ぬ　な

ち　け